

今年最後の干潮機会、村上吉継ゆかりの甘崎城趾に渡る

夏休みも残すところ一週間となりました。その夏休みの前半は台風12、11号に次々日本列島が襲われ各地に大雨を降らし各地で被害が発生しました。その台風が瀬戸内海を通過した翌日「伊予国の珍島」ともよばれ、年間に三度だけ陸地部から歩いて渡ることが出来る中世の海城で来島村上氏重臣、城主村上吉継の「甘崎城趾」を訪ねました。「事務局のうごき第38号」でも報告していますが未報告の部分をご案内します。

戦国末期、二神修理進に村上吉継の娘が嫁ぐ

瀬戸内大三島の東沖に浮かぶ甘崎城は築城時期について伝承などを含め諸説ありますが、確実な史料によれば5名の武将が居城していたと伝えられます。

中でも、来島村上氏の重臣だった村上吉継が永祿の初め頃より城主として甘崎城を拠点とした武将としての足跡を残しています。

また吉継は文芸にも優れた教養人で大山積神社の法楽連歌に26回参加するなどして多くの和歌を残しています。戦国末期の動乱期、東から秀吉が攻め登ってくる中で瀬戸内海の要衝地、大三島沖の甘崎城にあった村上吉継は来島村上氏の重臣としての苦悩があったと思われれます。そうした情勢の中で二神修理進に娘を嫁がせ、二神氏と縁戚関係を保持する道を選択した背景には何があったのでしょうか。多くの謎が残されていますが、未解明の部分が多くあります。

戦国末期、二神氏系譜三つの勢力(石野顧問)の一

つで、後に福岡藩士となる二神修理進系譜についての研究はあまり進んでいません。「瀬戸内島博覧会」の今年後半に是非取り組みたいと思います。



甘崎城趾南端の砂浜

「山の日」が制定、二神氏は「海の日」を有意義に

速報NO.46を送付します。会員の皆様にかかれましては今年のお盆休みはいかがお過ごしでしょうかお伺いします。8月15日を中心とする月遅れのお盆については「事務局のうごき第38号」で少しだけ触れていまずので省略しますが、この時期は夏休みの折り返しにも当たります。このため盆休みは、良い意味でのご先祖様とご一緒の夏休みと思えば納得できるのですが・・・

お盆行事の日程や内容は信仰行事も伴う事から地方や地域などによって様々です。以前から盆休みは国民の祝日でありませんでした平成8年から施行された「海の日」に対応する形で、平成28年から施行される「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」「山の日」が制定されました。文字通りお盆時期が国民の祝日として休めることとなりました。

海の民、二神氏としては来年から「海の日」を有意義にしてゆきたいと考えるこの頃です。

【二神修理進関連著作、論文資料】

- 『南海治乱記』(正徳3年7月3日) 香西成資
『旧記集』「来島通総一代記」 二神之慶
『瀬戸内海の家賊衆と海城』(1994.文献出版)山内譲
「伊予二神氏と二神文書」(2001.四国中世史)福川一徳

来年度総会、豊田郷で開催予定

来年の総会は創立15周年の年に当たります。また、長門国豊田郷で開催される「豊田氏慰霊五年祭」の年にも当たります。このため来春開催される二神会総会は長門国豊田郷で開催の予定です。

なお、来月開催予定の第2回常任理事会で15周年記念事業などについて協議し決定する予定です。